

安全データシート

製品名 炭酸塩 pH 標準粉末 (pH10.01)

作成日 2013 年 2 月 28 日

改訂日 2015 年 11 月 28 日

1 化学名及び会社情報

化学品の名称	炭酸塩 pH 標準粉末(pH10.01)
会社名	京都電子工業株式会社
住所	京都市南区吉祥院新田二の段町 68
担当部門	品質保証部
電話番号	075-691-4121
FAX 番号	075-691-4127
緊急時の電話番号	075-691-4125
整理番号	GHS-0114
品目コード	12-04816-07

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	可燃性固体	区分外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	区分 4
	皮膚腐食性/刺激性	区分 3
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分 1 区分 3(気道刺激性、 麻酔作用)
環境に対する有害性	水生毒性(急性)	区分外
	水生毒性(慢性)	区分外

上記で記載がない危険有害性は分類対象外または分類できない。

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

吸入すると有害(粉じん、ミスト)
 軽度の皮膚刺激
 重篤な眼の損傷
 胃破裂の障害
 呼吸器への刺激のおそれ、または、眠気やめまいのおそれ

注意書き

安全対策

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 保護眼鏡／保護面を着用すること。
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

応急措置

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
 暴露した場合：医師に連絡すること。

保管

容器を密閉して換気の良いところで保管すること。施錠して保管すること。

廃棄

内容物や容器を法令に従って廃棄すること。

3 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分

混合物

化学名(一般名)

炭酸水素ナトリウム、炭酸ナトリウム

成分名	含有量	化学式(構造式)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
炭酸水素ナトリウム	49.5%以上	NaHCO ₃	1-164	144-55-8
炭酸ナトリウム	49.5%以上	Na ₂ CO ₃	1-164	497-19-8

GHS 分類に寄与する不純物 なし
 及び安定化添加物

4 応急措置

吸入した場合

直ちに新鮮な空気の場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。

皮膚に付着した場合

直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。

眼に入った場合

直ちに流水で十分に洗い流す。

飲み込んだ場合

直ちに水または牛乳を飲ませ、医師の処置を受ける。無理に吐かせない。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどを着用する。

5 火災時の措置

消火剤

この製品自体は、燃焼しない。

使ってはならない消火剤

特になし

特定の消火の方法	速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、必ず保護具を着用する。
6 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業の際は適切な保護具を着用し、飛散したものなどが皮膚に付着したり、粉じんを吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を避難させる。
環境に対する注意事項	流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
回収、除去	飛散したものは掃き集めて空容器に回収する。飛散した場所は水で十分に洗い流す。
7 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	皮膚に付いたり、粉じんを吸入しないように必要に応じて適切な保護具を着用する。酸と反応すると二酸化炭素が発生するので注意する。
注意事項	みだりにエアロゾル、粉じんが発生しないように取扱う。
保管	
保管条件	
適切な保管条件	容器は密栓して冷暗所に保管する。
安全な容器包装材料	ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレン等
8 暴露防止及び保護措置	
設備対策	粉じんが発生する場合は、局所換気装置を設置する。
管理濃度	作業環境評価基準(2005)未設定
許容濃度(暴露限界値)	
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
保護具	
呼吸器の保護具	必要に応じて防じんマスクを着用する。
手の保護具	不浸透性保護手袋
眼の保護具	ゴーグル型保護眼鏡
9 物理的及び化学的性質	
物理的状态	白色の粉末
臭い	無臭
pH	10.01 (25°C)
融点・凝固点	データなし
沸点	データなし
引火点	不燃性である
発火点	データなし
燃焼又は爆発範囲	データなし

蒸気圧	データなし
蒸気密度(空気=1)	データなし
比重(密度)	データなし
溶解性	水に対する溶解性: やや溶けやすい 有機溶媒に対する溶解性: エタノールに不溶
オクタノール/水分配係数	データなし
分解温度	データなし
粘度	データなし

10 安定性及び反応性

安定性	通常条件で安定である。
危険有害性反応可能性	酸と反応して二酸化炭素を発生する。
避けるべき条件	日光、熱
混食危険物質	酸
危険有害性のある分解生成物(一酸化炭素、二酸化炭素及び水を除く)	データなし

11 有害性情報

製品としてのデータはない。参考として炭酸水素ナトリウム、炭酸ナトリウムの情報を記載する。

成分の有害性情報 <炭酸水素ナトリウム>

急性毒性

経口	区分外 ラット LD50 7334 mg/kg
経皮	データ不足のため分類できない。
吸入(蒸気)	データ不足のため分類できない。
吸入(粉じん、ミスト)	区分外 ラット LC50 4.74mg/L/4H
皮膚腐食性・刺激性	皮膚に対して軽度の刺激がある(区分3) ウサギの皮膚の一次刺激指数は 0.3/8 で、わずかな刺激性と評価されている。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	眼に対して刺激性がある(区分2B) ウサギの試験で、わずかな刺激性と評価されている。
呼吸器感受性または皮膚感受性	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。
発がん性	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器・全身毒性-単回暴露	胃破裂の障害(区分1) ヒトの経口摂取後、ガスの過剰発生により急性的に胃破裂を起こし、入院に至ったケースが複数報告されている。
特定標的臓器・全身毒性-反復暴露	データ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性	データ不足のため分類できない。

成分の有害性情報 〈炭酸ナトリウム〉

急性毒性

経口	飲み込むと有害のおそれ(区分 5) ラット LD50 2800 mg/kg
経皮	区分外 ウサギ LD50 >2000 mg/kg
吸入(蒸気)	データ不足のため分類できない。
吸入(粉じん、ミスト)	吸入すると有害(区分 4) ラット LC50 1.15 mg/L/4H(ミスト)
口腔内注射	マウス LD50 117 mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	区分外 ウサギの試験及びヒトでのパッチテストのいずれも「刺激性なし」と評価されている。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	重篤な眼の損傷(区分 1) ウサギを用いた試験において、刺激性なし～強い刺激性と相反する結果が出ている。その中の一つの試験で、非洗浄眼の場合全例に角膜、虹彩、結膜(発赤、浮腫)に症状が発生し、14日の観察期間終了後も症状が残り、ドライズの最大スコア平均(MMTS)が 105と報告されている。
呼吸器感作性または皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。
発がん性	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	データ不足のため分類できない。 ラット、ウサギ及びマウスの期間形成期に経口投与した試験で、仔の発生に悪影響を認めないが、親動物の性機能及び生殖能に及ぼす影響に関してはデータ不足のため分類できない。
特定標的臓器・全身毒性-単回暴露	呼吸器への刺激のおそれ・眠気またはめまいのおそれ(区分 3) ラット、マウス及びモルモットに呼吸暴露直後に呼吸障害とともに、呼吸困難、喘鳴、流涎などの症状が認められる。生存例では 3-4時間で症状軽快、剖検での病変は喉頭粘膜に限られ、標的器官の可能性として気道があげられている。一方、ラットに経口投与後の症状として運動失調、虚脱、嗜眠が記述され、生存例は 5日目までに症状が消去している。
特定標的臓器・全身毒性-反復暴露	データ不足のため分類できない。 ラットの 3.5ヶ月間吸入暴露した試験(0.07 mg/L)で、一部呼吸器系に組織学的変化が見られたが、分類にはデータ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性	データ不足のため分類できない。

12 環境影響情報

製品としてのデータはない。参考として炭酸水素ナトリウム、炭酸ナトリウムの情報を記載する。

成分の有害性情報 〈炭酸水素ナトリウム〉

移動性	データなし
残留性・分解性	データなし

生態蓄積性	データなし
生態毒性	
魚毒性	
水生毒性(急性)	区分外
水生毒性(慢性)	区分外
	甲殻類(オオミジンコ) LC50 4100 mg/L/48H
成分の有害性情報 <炭酸ナトリウム>	
移動性	データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
生態毒性	
魚毒性	
水生毒性(急性)	区分外
水生毒性(慢性)	区分外
	魚類(ブルーギル) LC50 300 mg/L/96H

13 廃棄上の注意

廃棄方法

残余廃棄物	水に溶かして酸で中和した後、多量の水とともに下水に流す。中和時に二酸化炭素を発生するので注意する。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。
容器	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14 輸送上の注意

国際規制

 国連分類(Class or Div.) 分類基準に該当しない

使用者が構内若しくは構外の輸送若しくは輸送手段に関連して知る必要がある、又は従う必要がある特別の安全対策

 運搬に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。

15 適用法令

毒物及び劇物取締法	該当しない
労働安全衛生法	該当しない
化学物質管理促進法	該当しない
消防法	該当しない

16 その他の情報

引用文献

 製品安全データシート 37116 炭酸水素ナトリウム(関東化学株式会社)
 製品安全データシート 37141 炭酸ナトリウム(関東化学株式会社)

記載内容の問い合わせ先

 担当部門 品質保証部

電話番号 075-691-4125

FAX 番号 075-691-9536

-
- ※ 記載された内容は、一般的に入手可能な情報やメーカー所有の知見によるものですが、すべての資料及び文献を調査したものではなく、含有量、物理化学的性質、危険有害性などに関しては、いかなる保証をなすものではありません。従って、ここに記載した製品の取扱い又は保管時における事故に対して責任を保証するものではありません。又、新しい知見によって改定されることがあります。
- ※ 記載された注意事項は通常取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いの場合には、十分な安全対策を実施の上、ご利用ください。

以上